15秒CMやPR動画に臨場感と深みを与える「環境音（アンビエント音）」や「効果音（SE）」を生成・調達できるツールやソフトを、無料版を含めて整理しました。

B型就労支援事業所での講座運営を想定し、「プロンプトから音をゼロから生成する最新AIツール」と、「高品質な既存音源を直感的に探して使えるフリー音源プラットフォーム」の2系統に分けて紹介します。

1. プロンプトで環境音・SEを生成するAIツール

「雨晴海岸の静かな引き波」や「工房の溶解炉の重低音」など、頭の中の具体的なシチュエーションを文字（プロンプト）で指示してオリジナル音源を出力できるツールです。

① ElevenLabs（Sound Effects機能）

- 特徴: ナレーション機能で紹介したElevenLabs内にある効果音特化のAI生成機能。文字入力だけで極めてリアルな環境音や動作音を生成できます。
- 料金・制限:
  - 無料プランあり: 毎月の無料クレジット（10,000文字分）の中からSE生成も利用可能。
  - 商用利用: 無料枠は非商用（クレジット表記要）、商用利用はStarterプラン（月額約$5〜）。
- 使い方例（プロンプト）:
  - 雨晴海岸：Gentle ocean waves washing ashore, distant calm sea, relaxing ambient sound
  - ガラス工房：Deep furnace fire rumble, burning flame sound, subtle metallic clink
- 講座でのメリット: ナレーション生成と同一アカウント・同一画面で操作できるため、受講生がツールの切り替えで混乱しません。

② AudioCraft / AudioGen（Meta社）

- 特徴: Metaが開発した環境音・効果音生成AI。Hugging Faceなどの無料Webデモサイト上で、ブラウザから手軽に体験できます。
- 料金: 無料（オープンソース・Webデモは無料利用可能）。
- 講座でのメリット: 「water splashing（水しぶき）」「footsteps on gravel（砂利を踏む足音）」などの短い英単語を入れるだけで数秒のSEが出力されるため、AIの仕組みを体験するワークに適しています。

2. 探してすぐ使える！高品質フリー効果音・環境音サービス

60分の短い講座枠では、「AI生成の待ち時間や調整」で詰まるのを避けるため、商用利用可能な無料音源ライブラリから探して配置する手法も非常に実用的です。

③ 効果音ラボ（Sound Effect Lab）

- 特徴: 日本国内の動画クリエイター・YouTuber・企業CMで最も広く利用されている定番サイト。
- 料金: 完全無料・商用利用可能（クレジット表記も不要、登録不要）。
- おすすめ音源:
  - 「自然・動物」カテゴリ：波の音、小川のせせらぎ、風の音など。
  - 「演出・アニメ」カテゴリ：決定音（ポチッ）、画面切り替え音、キラキラ音。
- 講座でのメリット: 会員登録が不要で、クリック1つで試聴・ダウンロードできるため、受講生の操作ストレスがほぼゼロです。

④ DOVA-SYNDROME（効果音・SEコーナー）

- 特徴: 膨大なBGMや環境音・効果音が登録されている国内最大級のフリー素材サイト。
- 料金: 無料・商用利用可能（各音源の規約に準拠）。
- おすすめポイント: 「波」「風」「炎」などの自然環境音のバリエーションが豊富で、富山の自然風景や伝統工芸のバックに流す環境音（アンビエント）を探すのに適しています。

⑤ Freesound（フリーサウンド）

- 特徴: 世界中のサウンドクリエイターが実地録音（フィールドレコーディング）した生音が集まる巨大データベース。
- 料金: 無料（Creative Commonsライセンスに基づく／商用利用可能なCC0素材多数）。
- おすすめポイント: 「実際のガラス工房の作業音」「早朝の海岸の波音」など、本物のリアルな空気感を切り取った長尺の環境音を見つけるのに向いています。

3. 動画編集ソフトに標準搭載されている「効果音ライブラリ」

外部サイトからダウンロードする手順を省略したい場合は、編集ソフトに最初から入っている効果音を使うのが最もスムーズです。

⑥ **CapCut**（**PC**版・ブラウザ版・アプリ版）

- 特徴: タイムライン左側の「オーディオ」→「効果音」タブに、膨大なフリー環境音・SEがカテゴリ別に内蔵されています。
- 料金: 基本無料。
- 使い方: 「波」「水」「スイッチ」と検索してドラッグ＆ドロップするだけで、映像のタイミングに合わせてタイムライン上に配置できます。

講座での実践的なおすすめフロー

第4回（60分枠）を円滑に進めるためには、以下のハイブリッド方式がおすすめです。

1. 基本の進め方: スタッフ側で「効果音ラボ」や「DOVA-SYNDROME」から厳選した「富山向きの音源（波、せせらぎ、炉の炎、決定音）」を共有フォルダに5〜10個あらかじめストックしておく。
2. **AI**体験: 進みの早い研修生やこだわりたい受講生には、「ElevenLabsのSound Effects」を使って「自分だけのオリジナルの音」を1つプロンプトから生成してみるチャレンジを用意する。

この形をとることで、全員が時間内に音声を完成させつつ、最新AIの面白さもしっかり体感できます。